

[農業経営に利用できる補完労働力の特性]  
ボランティアと農家間のコーディネート

村上昌弘・八木洋憲\*  
(経営部・\*農業工学研究所)

【要 約】 ボランティアを利用するための体制は、3タイプに大別できる。ボランティアを導入する際は、経営者のみならず家族全員の理解が必要であることと、経営管理における家族それぞれの仕事量が増えることが窺えた。外部調整やボランティアへの指示などは、役割の人以外は行わないことが重要であり、これにより安定した仕事や関係が保たれる。

【目 的】

労働力不足を補うためにボランティアを導入し、経営展開する農家が増えつつある。そこで、ボランティアと農家間とのコーディネート体制について調査し、ボランティアの確保の仕方について明らかにする。

【方 法】

府中市と町田市の農家、そこに参加しているボランティア者を対象にコーディネートの仕方を中心に聞き取り調査を行った。

【成果の概要】

- 1) 調査対象農家をボランティア利用のための体制で大別すると、直接調整する体制(タイプA)、ボランティアリーダーを介して行う体制(タイプB)、事務局で行う体制(タイプC)の3タイプとなった(図1)。タイプAは、経営者がボランティアのすべてとコーディネートする必要がある、ボランティアは固定し、限られた労働量となる。タイプBは、コーディネート機能が経営者から外部へ移り、ボランティアリーダーが行う。リーダーの調整機能は農作業と違ったボランティアの仕事である。タイプCは、事務局がコーディネートする、タイプBの発展形である。農家とボランティアとの労働をマッチングさせるために、申し込み期限が設けられている。
- 2) タイプCにおけるA農家内の役割をみると、仕事の決定については3人で行うため、栽培品目や日程、圃場等については、共通した認識を所有している(図2)。また、事務局の外部調整は経営者が行い、ボランティアの指示や組作業は家族Iが担い、調整・指示はその人だけが行う。
- 3) 聞き取り調査からボランティアの導入に関しての重要な項目についてまとめると、家族全員の意識改革、特に人が敷地に入ることとコミュニケーションができることが前提である(表1)。また、経営者の経営管理能力の向上が必要で、家族の役割分担や仕事を工夫し、ボランティア自身が必要とされて状況を意識させ、農作業の意欲向上につなげる。
- 4) 以上のことにより、ボランティアを利用するための体制は3タイプに大別され、導入するために経営者のみならず家族全員の理解が必要である。また、ボランティアを導入することによって経営管理における家族仕事、それぞれ増えることが窺えた。また、外部調整やボランティアへの指示などは、役割の人以外は行わないことが重要であり、これにより安定した仕事や関係が保たれる。しかし、農家の利用できるタイプは周りの組織にも規定されるため、新たな組織を作り上げることも必要である。

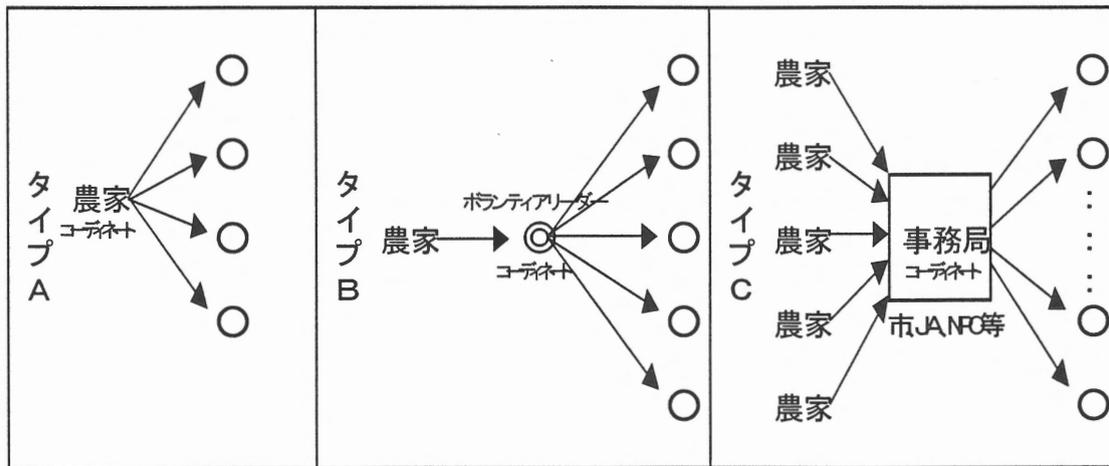


図1 ボランティアを利用するための体制

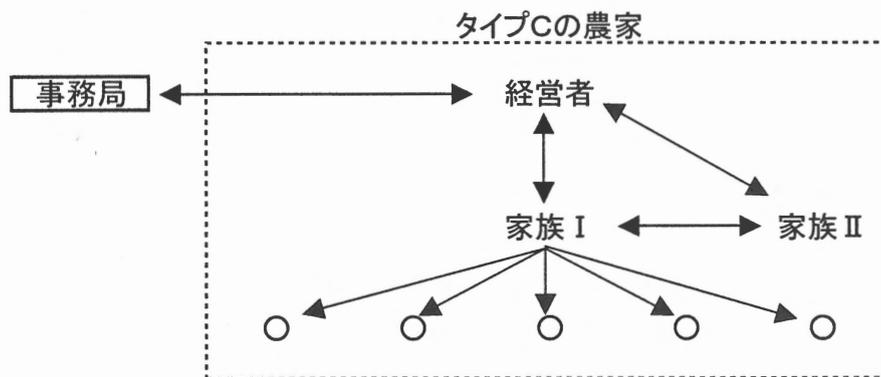


図2 A農家における役割

- ※役割分担
- 作業（作付け）計画：経営者・家族I・家族IIで打合わせ
  - 事務局への連絡（ボランティアの人数等）：経営者
  - ボランティアの指示：家族I
  - ボランティアとの組作業：家族I

表1 導入に関する重要事項

- 
- 人が入ることについての意識改革
  - 作業の工夫（手順・方法の良さが必要）
  - ボランティアへの指示の一本化
  - ボランティアとの打ち合わせ
  - 農家同士の情報交換の重要性認識
- 

※聞き取り調査から